

ね。でも、丹波・丹後う。
ではやっぱり暖冬では 冬の間、海は冷たい
ないでしようか。寒い 大気に海面から冷やさ
年なら毎朝のように凍れ続けます。お風呂と
り付く我家の水道が、同じように冷たい水は
この冬はまだ一度も凍重いので下に沈み、代
つていません。何より わりに下にある温かなな
も雪がないし、舞鶴 水が海面に浮かび上が
名物の冷たい時雨もすり、それが冷やされて
いぶん少ないようと思 また沈みと繰り返し、
います。
さて、1月の終わり かき混ぜられて深いと
ごろ、海では植物プラ ころの水が海面まで浮
ンクトンが大増殖を始 かび上がります。
め春が始まろうとして このかき混ぜが海の春
を呼ぶのです。

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

海の春



いろんな形の植物プランクトン

「この冬は暖冬」と
いう長期予報がはずれ
たと、気象庁はずいぶ
んに、これよりは、

めごろ、海の春は水温
が一番下がる時期より
1カ月も前に始まるの
だ。

を魚が食べて、と海の
食物連鎖は進みます。

つても太陽の光が足りない深海では増えるこ

殖できます。つまり、

います。陸上の草がいっせいに芽吹くのは3月、気温が上がり始めてからですね。でも、海の表層水温が一番冷たくなるのは3月の初

陸から供給される窒
素やリンなどの栄養分
を利用して植物プラン
クトンが増え、それを
食べて動物プランクトン
が増え、さらにそな
の春

このブランクトンや魚の糞とか死骸は海の底へと沈んでいきます。そのため、水深数百メートルまでは深いところほど栄養分が多いのです。

とができません。冬のかき混ぜは深層の栄養分を陽光豊かな海面近くに運んでくる働きをしているのです。真冬でも水温が10度を下回ることのない日本海では、栄養分さえあれば

です。この冬の気圧配置は春型が多く、やはり暖冬なのではないでしょうか。